

平成26年7月23日

浜田市議会議長 原 田 義 則 様

議員名 芦 谷 英 夫



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成26年7月21日（月）
2. 研修内容 「新しい地域支援事業のあり方を考えるフォーラム in 島根  
～生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加をめざして～
3. 研 修 先 出雲市
4. 調査経費 浜田市（自家用車）⇒出雲市⇒浜田市  
ガソリン代 3,400円
5. 調査研究活動の概要  
別紙のとおり



「新しい地域支援事業のあり方を考えるフォーラム in 島根  
～生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加をめざして～」

- 1 日 時 平成26年7月21日（月）13時～17時
- 2 場 所 出雲市朱鷺会館
- 3 内 容

■厚生労働省老健局服部真治課長補佐は「介護保険法改正と新地域支援事業」で、平成37年には、団塊の世代が75歳以上となり75歳以上は現在13・1%が18・1%に、65歳以上は現在26・7%が30・3%になる。介護保険制度の改正は、在宅医療と介護の連携、認知症施策、地域ケア会議、生活支援サービスの充実強化などが進められる。

■さわやか福祉財団堀田力理事長は「地域は新地域支援事業をどう受けるか」で、社会的孤立となり地域社会でのつながり助け合いによって地域支援事業を担うべき、要支援者高齢者だけにとどまらず子ども、障がい者など社会的弱者を幅広く対象とする、高齢者など自らも社会活動に参加し利用者であると同時に担い手であるとの考え方をつくる。地域に共助の文化をつくり出す、幅広い市民が参加し社会に貢献できる仕組みをつくる、地域の横のつながりをつくる。

■パネルディスカッション「協働による新しい地域支援の仕組みを考える」では、北浜地区安心ネットワークは認知症高齢者への支援、高齢者への見守り、ボランティア活動、サロンの設置。たすけあい平田の活動は、たすけあい活動から発展し訪問介護事業、移送サービス介護タクシーの開始。吉賀町社会福祉協議会は安否確認、見守りなど訪問員配置事業。大田市では会食による交流、料理づくり、外出をうながし交流を進める、などの事例が報告された。島根県高齢者福祉課からは、生活支援サービスの活動主体となるNPOなどの状況、地域での助け合いの強弱、保健福祉部門と市域福祉部門との連携の必要性、生活支援としての交通確保などの考えが説明された。

#### 4 所 感

■高齢化が進み高齢者の福祉活動、福祉サービスの充実などと並行して、高齢者自らの元気づくり、健康づくり、介護予防などが必要であり、地域支援事業には、複雑多様化した地域の営みや市民生活から生ずる問題など総合的に対処する必要がある。

■高齢社会への施策は待ったなしで、当事者や市民が可能な限り自立する、地域や市民が地域活動で役割を担い課題を解決する、それを行政が支援する体制をつくる、ことが必要で、「行政はまず仕組みをつくる、そして具体的な支援をする、できなければ行政自らがやってみる」このような仕分けが必要である。

■地域では世話役や活動の支え手が少ない、独居の高齢者が増えている、地域活動が不活発であり地域活動への参加が消極的などの現実がある。ここはまず参加することを第一とし「何を、誰が、どのようにするか」と具体的に積み重ねていくことが重要である。

■行政や各種団体や既存組織の縦割りを改め、地域の縦割りから横割り地域割への地域連携の仕組みづくりを進め、自治会や社会福祉協議会、公民館などの一元化、施設、各事業者などの地域活動への参加促す、いわば団体や組織などの社会化も必要である。

■新しい地域支援事業が始まることを契機として、市民、福祉関係者、行政などが英知と地域資源を結集し、新しい高齢者生活サービスの仕組みをつくり出す必要がある。